

2012年4月13日

 中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co., Ltd.

～ボーイング 787 型機部位保管庫～ 「ドリームリフター・オペレーションズ・センター」を新設

このたび、ボーイングと中部国際空港株式会社は、ボーイング787型機の部品輸送をより円滑に実施するため、中部国際空港内に「ドリームリフター・オペレーションズ・センター」を設置することで合意し、契約を締結いたしました。

ドリームリフターは、ボーイング747-4000 型旅客機からの改造機で、世界各国で製造された787型機の主要部位を米国内の最終組立地まで輸送します。現在、4機のドリームリフターが運用されており、中部国際空港は、ドリームリフターが運航する日本で唯一の空港です。

ボーイングの787ドリームライナーは、世界の航空会社60社が870機以上を発注(2012年3月現在)、民間航空機史上最速で受注数を増やしている民間航空機プログラムです。ボーイングでは、この需要に応えるために、月産の製造機数を2013年末までに10機にすることを決定しており、その体制作りの一環として同センターの設置を決定しました。

【施設の概要】

- ◆整備主体 : 中部国際空港株式会社
※中部国際空港株式会社とボーイングによる賃貸借契約を締結
- ◆建設予定地: 国際線28番スポットの南側一角(空港島中央最南端部) ※別紙図面参照
- ◆規模/構造: 建築面積 約3,000㎡(約70m*約40m、高さ:約15m)、鉄骨造、2階建て
- ◆整備スケジュール: 2012年6月末～7月頃着工予定
2013年1月頃完成予定

【施設用途】

- ① ボーイング787の部品を「ドリームリフター」に搭載するためのGSE車両(グランドハンドリング機材)「ラージ・カーゴ・ローダー(LCL)」及び「モバイル・テール・サポート(MTS)」を屋内に保管すること。
- ② 三菱重工業(株)、川崎重工業(株)、富士重工業(株)の各工場から海上輸送されるボーイング787型機部位を、「ドリームリフター」に搭載するまでの間、一時的に保管すること。



ラージ・カーゴ・ローダー(LCL)



モバイル・テール・サポート(MTS)

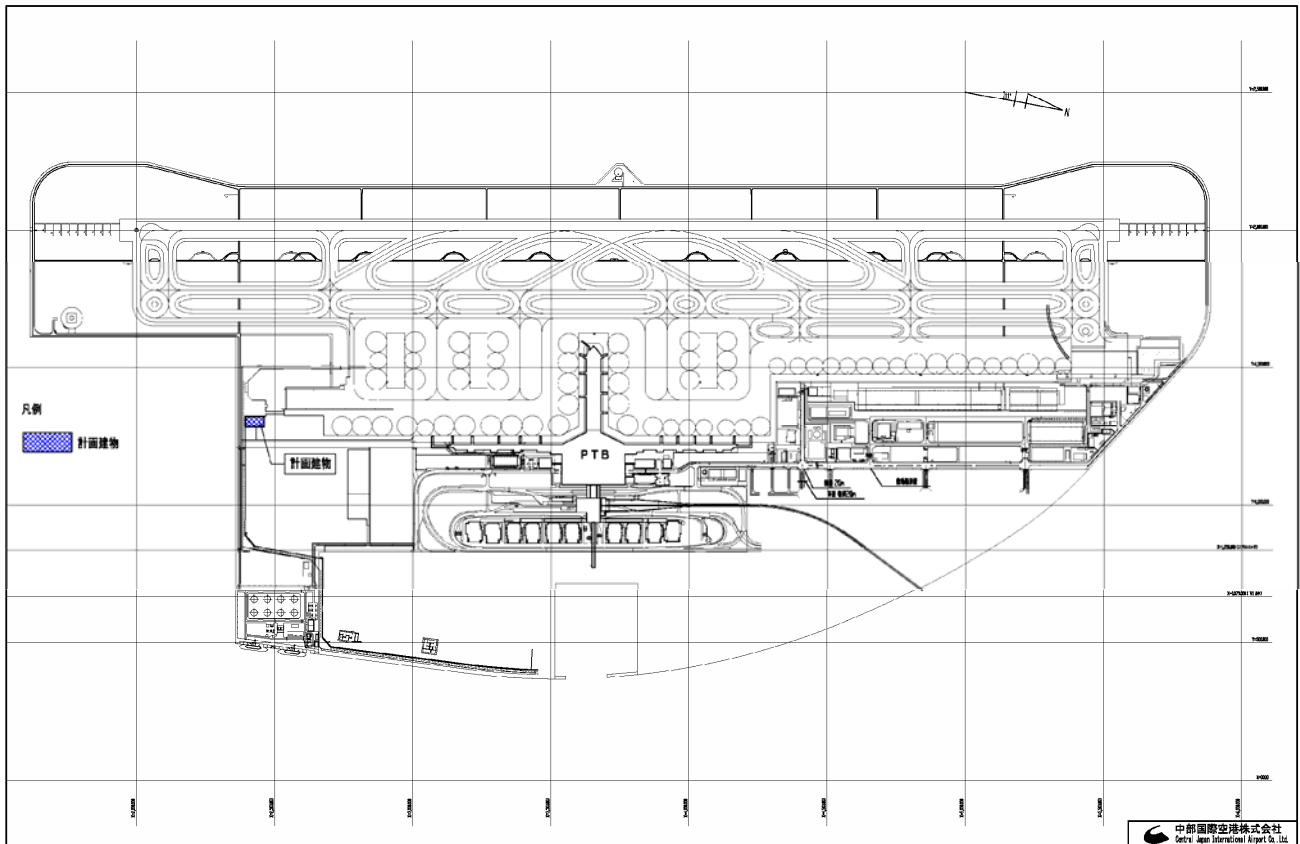
※ ラージ・カーゴ・ローダー(LCL)は、ドリームリフターへボーイング 787 の部品の積み降ろしを行うためのグランドハンドリング機材

※ モバイル・テール・サポート(MTS)は、ドリームリフターの後部ドアを支え、開閉を行うためのグランドハンドリング機材

	ラージ・カーゴ・ローダー(LCL)	モバイル・テール・サポート(MTS)
総重量	約 176.9トン	約 64.4トン
大きさ	長さ:33.38m、幅:7.8m、高さ:4.19m	長さ:9.14m、幅:4.19m、高さ:4.65m

〈イメージパース図〉





ボーイング787部品輸送の概要

■海上輸送

三菱重工（大江工場）
川崎重工（名古屋第一工場）
富士重工（半田工場）

各工場より船にて部品を海上輸送



■セントレア内における部品輸送



港湾地区



海上輸送した部品をセントレアの港湾地区より陸揚げします。

駐機場 (Spot: 404・405・406)



専用ローダーを使い、部品を輸送機 (ボーイング747LCF) に積み込みます。

ステージングラックエリア



部品を輸送機に積み込むために、専用ローダー(左図)に積み替えます。

輸送機で空輸



最終組み立てのため、米国へ空輸します。